

# 学力向上推進システム「Sプリ」について

—子どもたちの「わかったつもり」を「できる！」に変えるために—

NPO 次世代教育推進機構  
a.kato@kyo-kai.co.jp

キーワード：小学校、中学校、学力向上、定着学習、放課後・土曜補習、算数・数学、プリント学習

## 1. 「Sプリ」企画の背景

教科書での学習内容が増える中、教育現場では、その定着をどこで、どの様にはかるかが大きな課題となっています。「家庭学習の充実」が必要なのは言うまでもありませんが、本来、子どもたちの習熟状況が異なる中で、学校での課題提示の在り方、また、学力向上へのアプローチの方法としては充分とはいえないのではないかと考えました。そうした点を最大限に考慮し、私たちは児童・生徒個々に対応した学習効率が高いプリント学習システムの構築を考えました。

## 2. 「Sプリ」の特色

### (1) スモールステップでの問題構成

子ども自らが「わかった!」「できる!」の実感を持つように、敢えて科目を基幹教科である算数・数学に限定し、単元の学習内容を可能な限り細分化しました。レベルは基礎・基本から応用・発展まで対応しており、その枚数は、小学・中学内容で約20、000枚を格納。特に、学力の伸長が難しいとされる児童・生徒にも「解き進む力」を培える問題構成としました。また、学力の違う子どもたちが、一つの場所で学習することを想定して、プリントの算数・数学の科目表示、学年表示は明記していません。

### (2) 「学習計画」機能

子どもたちの習熟状況、数学科での課題等にあわせた「学習計画」を簡単に作成することができます。例えば、20、000枚のデータベースの中から任意の単元を選択し「中学3年朝の数学タイム—関数編—」「小学6年 のびのびコース適応問題集」等の学習計画を組めるようにしており、学校での限られた時間の中で、効率の良い演習活動を行うことができます。作成した「学習計画」は、個人、集団(グループ)に適應でき、大きくは学校や自治体の独自のシラバスにも対応することが可能です。

### (3) 「成績管理」機能

「Sプリ」のシステムにある「成績管理」画面では、「Sプリ」で学習した足跡を一覧で表示できます。学習状況の把握はもとより、そのデータのいくつかの項目をデータソートすることにより、どこに躓きがあるのかを容易に分析することができます。また、そうした児童・生徒の学習記録を全て管理。これをもとに、月単位や指定した範囲で、保護者向けの成績記録票を発行することができます。

### (4) その他の特色として

システムに依存するのではなく、「Sプリ」にある膨大なデータベースの中から、例えば、授業の単元の終

末に一斉に確認テストを実施する場合でも、必要な枚数と出力方式を指定することで、簡単にプリントを用意することができます。また、「Sプリ」を活用する場面、時間、児童・生徒数を管理する「グループ管理機能」、プリントの種別印刷、デザインの変更などを容易にする「システム管理」機能等々、「Sプリ」は多彩な機能を搭載しています。

## 3. 「Sプリ」の活用事例紹介

活用事例の一つとして、東京都杉並区立和田中学校(代田昭久校長)での事例をご紹介します。同校は、「ドテラ」(学校支援地域本部による土曜補習)、「よのなか科」(著名講師によるキャリア教育)や「夜スペシヤル」(都立、私立の中上位校への進学を目指す補習授業)で有名です。こうした取り組みもあり、学力は全国のトップレベルとなりましたが、学力低位層は、依然として横ばいという課題がありました。

こうした課題への対応として、同校では「Sプリ」を導入。学力に低迷する子どもたちや、心を病んだ子どもたちを対象に2010年度より放課後補習を行っています。

## 4. 「Sプリ」を活用することで

2010年9月から始まった中学3年を対象とした補習指導での効果は目覚ましいものがありました。子どもたちから『受験に自信がついた』『自分のペースでできるのが良かった』等の声も聞くことができ、その様子を昨年1月『教育フォーラム』(於：品川区立荏原平塚学園)で、同校の代田校長、石田副校長にお話いただきました。私たちも、どんな子でも「わかりたい」という想いがあるのだと、あらためて認識させられました。非常にきめ細かく作った「Sプリ」のスマールステップでのプリントが、子どもたちの「解き進む力」の伸張に役だったのではないかと思います。

## 5. 最後に

子どもたち一人ひとりの「わかったつもり」を「できる!」に変えていく。そんな公教育であって欲しい。「Sプリ」を通して、多くの子どもたちに「できる!」の実感を与える。これが私たちの願いです。